

平成17年度第1回倫理審査委員会報告

○ 目的

衛生研究所の職員が実施する調査、研究、実験及び実習等が研究対象者の人権配慮、研究内容の説明と同意等、倫理的配慮の下で適切に行われることを目的として、倫理審査委員会による審査を実施しました。

○ 開催日 平成17年9月1日（木）

○ 倫理審査委員

委員長	前納 弘武	大妻女子大学社会情報学部教授
委員	小西 康子	北里大学理学部助教授
委員	尾坂 郭子	生涯学習インストラクター
委員	今井 光信	衛生研究所所長

○ 審査対象研究課題

平成17年度研究課題のうち、検査材（人体から採取した血液等の資料）を用いる5研究課題について審査を実施しました。

○ 審査項目

1. 研究によって生ずる危険性と学術上の成果の総合的判断
2. 研究対象となる個人又は検査材の提供者の人権擁護
3. 検査材の入手方法

○ 研究概要と審査結果

No.	研究概要	審査結果
1	VNTR法を利用した結核菌型別に関する基礎研究 結核は現在でも国内最大級の細菌感染症である。今後急速に進む高齢化社会において結核の集団発生が懸念される。本研究は、結核菌の感染経路および感染源の解明をするために遺伝子型別法を検討する。新しい遺伝子型別法であるVNTR法に着目し、迅速・簡便な結核菌型別法の確立を目指して検討を進める。この方法が確立されることにより、結核菌の集団発生時における迅速な対応が可能になる。	承認 (留意事項) 菌株の情報のイニシャルは避けて、患者名を連想しない記号化等を用いるようにすること。
2	HIV感染者のためのフォローアップ検査に関する研究 HIV感染者の治療は近年大きく進歩しているが、効果的なケアや治療のためには、いろいろなHIV検査を行って、患者のウイルスの性状や動態を正確に把握しておくことが重要である。本研究は、HIV感染者のための効果的な検査体制を構築するために行う。	承認

3	<p>HIV 検査法・検査キットの比較検討に関する研究</p> <p>HIV の検査法や検査キットの比較検討を行うための研究である。近年、HIV 検査法は抗体検査をはじめ、抗原検査、抗原抗体同時検査、核酸増幅検査などいろいろな検査法があり、それらの手法を用いた検査キットが多く開発されてきている。検査キットの性能を確認し、検査法の精度向上を図るとともに、新たな検査法の開発を進めていく。</p>	承認
4	<p>加工食品中の卵アレルギーの変性および抗原特異的抗体との結合能の解析</p> <p>アレルギー表示制度が施行され、加工食品のアレルギー物質の表示は進んでいるが、実際に食物アレルギー患者が加工食品を購入しようとした時、どの程度アレルギー症状が現れるのか予測することは困難である。そこで、本研究では患者血清中の食物に対する抗体を用いて、実際の加工食品に含まれる食物のアレルゲン性の程度を評価し、食物アレルギー患者が安心して摂取可能な食品が広がることを目的としている。</p>	承認
5	<p>食物アレルギーの原因食品に含まれるアレルゲンの検出と低アレルゲン化に関する検討</p> <p>食物アレルギー患者の食物アレルゲンを同定し、アレルゲンの種類を確認するとともに、原因食品を原料として製造された加工食品や異なる調理法によるアレルゲンの変性について、患者血清を用いて検討する。このことにより、アレルゲン性の低い加工食品や調理法を見出し、食物アレルギー患者であっても安心して摂取できる食品や調理法を提供し、食生活の向上に貢献することを目的とする。</p>	承認